

講演録

# 宗教者と平和

～ 仏教者としての平和への想い～

## 小野和典

真宗大谷派法讚寺住職(掛川市)  
静岡県宗教者平和懇談会 事務局  
九条の会・掛川 会員

竜爪山九条の会 8周年のつどい 記念講演

2015年3月29日(日)


静岡市葵区長沼 真勝寺 本堂

# 目 次

## 講演前半

1	はじめに	1
	◇真宗の寺に生まれて	1
	◇九条の会・掛川 誕生秘話	2
	◇静岡県内の九条の会と静岡県宗教者平和懇談会	3
2	日本宗教者平和協議会と静岡県平和懇談会の活動紹介	4
	◇日本宗教者平和協議会 発足時の旗	4
	◇宗教者の平和運動の交流集会 ◇2012年、原発の話	5
	◇墓前祭を守りぬいたお二人	6
	◇久保山愛吉さん墓前祭	7
	◇平和行進	10
	◇いのちをえらびとる断食の祈り	11
	◇追弔法会と灯籠流し	12
	◇非核非戦の法要	13
	◇基地見学	14
	◇沖縄戦のガマ	16
	◇若狭の原発群	17
	◇僧籍を剥奪された高木顕明さん	18
	◇宗平協 全国理事会	19
	◇真宗大谷派 九条の会	20
	◇原爆死没者追弔法会in鉄舟寺	21

## 講演後半

1	冒頭挨拶	22
2	宗教と平和  宗教者と平和	23
2-1	諸宗教の平和論	24
2-1-1	仏教の平和論	25
2-1-2	平和とは	27
2-2	宗教と「宗教者」、「宗教と平和」「宗教者と平和」	28
2-3	歴史からの検証「いのちの尊厳」を踏みにじった史実	28
2-3-1	真宗大谷派教団の「戦時教学」	29
2-4	宗教者の「戦争責任」と「戦後責任」	30
3	現在に呼びかけられていること	31

## 1 はじめに

### ◇真宗の寺に生まれて

みなさん、こんにちは。掛川からまいりました。今、ご紹介いただきました小野和典おのかずのりといいます。和典という名前は、私の祖母が付けてくれた名前なのですが、寺に生まれると、もう生まれた瞬間から、もうすごい名前をつけられるんです。(笑い) 私の父は岱瑛たいえいという名前で、祖父は皓哉こうさいという名前で、漢字が全部二文字で、しかも音読みですよ。私の代で初めて、訓読みの名前をつけてもらったという、私にとってはたいへん有難い名前なんです。あとでも出てきますが、和典の“和”は嬉しいですよ、平和の和です。いいかげんな男ですが、和典の“典”は、まあ、うちのばあさんは事典のような賢い子に育ててほしいと思っただけですが、近所の人がいわく、「ああ、寺の息子か、香典の典だ」と。(笑い) まあ、香典の典でも間違いはありません。

こういったなかで、掛川の日坂にっさかという所です。江戸時代にはだいぶ栄えた所です。五十三次の二十四番めの宿場ですね。ですから、狭い所に道をわざとS字形に曲げまして、それで、なるべく多くの民家を作ろうとして、間口で税金をとったんですね。だから、京都の町長屋といっしょで間口が狭い、奥行きが長い。だから、「ごめんください」って入ってくると、ものすごい奥のほうで、「はい、いらっしゃい」と声がする。ほんとにうなぎの寝床というか、そういう地域の中に、昔で言う、長屋的なうちが密集した所で私は生まれたんです。寺はちょっと引っ込んでいまして、今でこそ道ができましたので、車で入れますが、当時は表の通りからのぞかないと入れなかった、そういうような寺です。そこに生を受けて、還暦、60年を迎えました。

今日、ここの真勝寺さん、実はよく何回も通ってはいたんですが、今度、一郷いちごうさんと打ち合わせをするというので、一週間ほど前ですか、寄せてもらったんです。ナビは「このへんです」と言ったんですが、どうもぐるぐる回ってて、どこだかわかんなくなっちゃって、またしまいに一郷さんの方に電話をして、「今、私はどこにいますでしょう」。(笑い) まあ、とんでもない電話をしたんですが、やっとわかりました。それで状況がわかったら、近くに、さっき言った、うちの日坂の宿から戦後出た方で、千代田の方にも門徒さんがいらっしゃる。よく通ってたんです。ですから、ここで一週間前に、打ち合わせをさせていただきました。

## ◇九条の会・掛川 誕生秘話

前置きが長くなってすみません。竜爪山九条の会の8周年、おめでとうございます。私、さっき紹介があった「九条の会・掛川」、しばらく前まで事務局をやっておりました。「お前、あっちこっち事務局をやるもんだから、わけがわからなくなって、どれか一つにしぼって」ということで言われまして、いろいろと学ばせていただいております。

九条の会・掛川というのは、ちょっと創立秘話がありまして、すみません、こんな話ばかりしてるもんですから、時間がどンドンたってしまうかもしれませんが、どこで誕生したかという、曹洞宗のお寺さんで誕生したんです。

倉真温泉くらみというのをご存知の方もありませんが、第二東名の、今パーキングエリアができたんですが、そこのすぐ下に、世楽院せらくいんというお寺さん、そこでなんと立正佼成会の方々が学習会をすると聞きました。「えっ、佼成会は教会があるのに、なんでご自分のとこでやらないんですか」と聞いたら、「私たちはそれぞれのお寺さんを借りて勉強会をするんだ」と、言っていました。2006年のことだったと思います。そこの世楽院という曹洞宗の寺のご住職が教員をやっておられて、当時ですね、とにかくたいへんな状況で、竜爪山の会もそうだと思いますが、危機感を皆さんが持っていたんですね。掛川にもそういう動きがあったんですが、火付け役となってくださったのは、なんと立正佼成会の人たちなんですね。そこへ、曹洞宗の住職さんが、「これこれこういうわけで学習会をするから、お前、資料をもって来い」と言われたんですね。「えーっ、先生作ってくださいよ」と言ったら、「俺が作ってもいいけど、あんたいろいろ資料もってるだろう」ということで、「何の資料ですか」って聞いたら、その時、教育基本法が変えられたわけですね。そういう状況の中で、その資料も持って来てほしいよ、ということで、「はい、資料はお持ちします。私も一緒に勉強させてください」って、ばさっと印刷して持っていったら、話が違って、「よし、じゃあ、お前話をしろ」と言われちゃった。全然きいてなかったんですけど、そこの本堂で話をさせていただいたら、立正佼成会の人たちがですね、いろいろ動いてくださって、当時、元気あったですね。「掛川に九条の会を作りませんか」ということで、もう一人坂部さかべさんという方と私がとにかく事務局になって、立正佼成会の人たちも入ってもらって、広く呼びかけようということで、九条の会・掛川はお寺の本堂から誕生したんです。

九条の会・掛川は、ある地方新聞の新聞社の一角を借りて、月に一回、私たちはスタッフ会と呼んでいるんですが、そこで、いろいろ話をして、とにかくフリーに、い

ろいろな話を進めていく。そして、9条、時に非常に危なくなっている状況でしたから、いろんな人が集まって、準備会・企画会的なものを立ち上げていきました。ただし、9条に限らず、憲法の改正には賛成だという人たちも来てもいいじゃないかという意見もありまして、呼びかけはしました。いろんな人たちが発会の式に、9年前になるのかな、のぞきにくるんですね。ああ来た来た、どうぞと言ったんだけど、後ろの方でこうやってのぞかれながら、そのまま帰っていかれた方もあるんです。そういった中で、九条の会・掛川も誕生して、今は年に2～3回、「憲法寺子屋」という、そういう名前で、いろんな人たちをお呼びして講演会をやったり、或いはシンポジウムをやったり、そういった形で続けています。

ここで、映像をちょっと映させてもらいますが、静岡県の宗教者平和懇談会とか、日本宗教者平和協議会という組織があるんですが、九条の会ができる前に、そこで活動をさせてもらっていたので、紹介をさせていただきます。

#### ◇静岡県内の九条の会と静岡県宗教者平和懇談会

この前もネットで調べたら、今いくつぐらいあるんですかね。県内に九条の会が、150ぐらいですか。日本全国だと8,000ぐらいの数ですかね。それぞれ、地域別に、階層別に、九条の会が各地で誕生をして、当時の言葉でいうと、とにかくカッコいいですね、“燎原の火のように”という言葉があったんですが、その言葉を借りながら「九条の会」もスタートした覚えがあります。

そのような中で、ネットで調べてみたら、竜爪山九条の会、ずうっと150ぐらい県内の九条の会がある中で、色が違ってるんです。なんだろう、組織的にかなり大きいんじゃないかなと思っていたら、ホームページをもっていらっしゃる。ご苦労くださっている方がおられると思うんですが、そういう会は、色をつけてくださってあって、早速見てみましたが、ありがとうございます。ほんとにいろいろやってくださって、直接いろいろ話をしてくださった、こちらの一郷さん、三輪さんにもお世話になっております。そうした中で、8周年の会に呼んでいただきまして、ありがとうございます。私からお礼申し上げなくてはいけないなと思います。

なぜかという、さっき言ったように、静岡県の宗教者平和懇談会というのは、発足は2003年12月です。ですから、「しずおか憲法9条の会」ができたそれよりも前に、別に九条の会を意識したわけではないですが、作られました。一昨年、10周年を迎えて、また会を継続していこうということです。静岡県宗教者平和懇談会というのは、さっきいった竜爪山九条の会とか、いろんな地域別、階層別の九条の会をネットで調

べると、一番下にいつも書いてくださってある。先頭でなくてもいいから、会がいくつになっても一番下に置いてください、ということで、当時鈴木さんという方に、お願いした覚えがあります。鈴木さんが亡くなられて、八木さんやいろんな方が引き続いてやっておられるんですが、なかなかホームページの更新はされてないようで、それぞれの会で、地域で、それぞれ活躍をしてくだっている方が、この中にもたくさんいらっしゃるんじゃないかと、そんな風に思います。ですから、今日は私もいろいろな紹介はさせていただきたいと思いますし、後で時間をとってくださるようなので、私もいろいろ聞かせていただきたいこともたくさんあります。どうか、よろしく願いします。

## 2 日本宗教者平和協議会と静岡県平和懇談会の活動紹介

さっきお会いした方に何度も申し上げたんですが、私はどっちかという、メモ帳もって、ペンもって、飛び回って、誰かが発言するとマイクを持つ係なんです、いつも。だから、軽いんです足が、体は重たいんですが。日本宗教者平和協議会の中でも、「静岡県の他の人はみんな忙しいから、おまえ出て来い」ということで、「私ヒマではないですが」と言ったんですけど、月に一度か二度ぐらい、東京に事務所があるんですから、出かけさせていただいて、それぞれの中で活動をさせていただいております。静岡県には先ほど言いましたように、12年目を迎えました、西部から東部、いろんな宗教者のみなさんと、共々に活動させて頂いております。

言葉でいろいろ言うよりも、こんど映像で50～60枚、昨日お彼岸が終わったものですから、やっと集めてディスクにまとめましたので、ちょっとフラッシュになります、ポンポン出してみますのでご覧下さい。知ってる方も出てくるかもしれません。宗教者といっても、ここは真宗大谷派の本堂ですが、キリスト教の方も天理教の方も、中には神道の神主さんも出てきますし、いろんな方が出てきますけれど、こんな活動をしていますという、ちょっと紹介を兼ねてさせていただきたいと思います。

### ◇日本宗教者平和協議会、発足時の旗

まずこれは、もう発足して52年、一昨年50周年を迎えました。日本宗教者平和協議会、当時の、発足した時の旗です。実はこの旗が、私は当然生まれてはいましたが、たいへんな状況の中で生まれた組織だということが、3・1墓前祭だとか、或いは原水爆禁止にかかわるいろいろな分裂の大変な状況、あとで本も紹介しますが、そういっ

た重みを背負った旗だということで、恐る恐る事務所から持ち出して、我が家で広げて写真にとったのがこの旗です。あとで出ます久保山愛吉さんの墓前祭だとか、ビキニデーの時なんかには、この旗を持って行進をお願いします、宗教者の皆さんに。そういった中でこれから説明をさせていただきます。



↑ 宗平協の旗

### ◇ 宗教者の平和運動の交流集会

3月1日に墓前祭というのをしていますが、全国から集まるんです。みなさんも、それぞれ参加された方も多いと思います。前日の2月28日に、宗教者は、焼津の弘徳院のそばに宿泊、この頃は山の上のかんぽの宿ですが、そこに集まって、宗教者の平和運動の交流集会というのを行います。

ここでいうと、一番右の方、佐治さんと書いてあります。ご存知ですか。平和の紙芝居をやる、伊豆市に住んでおられる佐治麻希さん。就職になるために身延山に行って、剃髪をしましてね。それまで、5年前にはNPTで長髪で活躍をして、ニューヨークで平和の紙芝居、『サダコと千羽鶴』を上演してくれたんですが、宗教者平和懇談会の仲間に加わっておられる方です。ここは、3年ほど前の会でしたが、意図的に若い宗教者に集まっていたかどうかということで行いました。



↑ ↓ 宗平協交流集会2011年



### ◇ 2012年、原発の話

今度は2012年ですね、原発の話を知ろうという会です。向かって左側は司会者ですが、今、宗平協の理事長をやっている荒川庸生さんです。葛飾ピラ配布事件で、不当にも逮捕されてしまった方ですが、宗平協の理事長を務めています。

その次の方は、早川篤雄さんという浄土宗の住職です。福島県の<sup>ならはまち</sup>檜葉町、困難地域の中にある寺の住職で、原発の問題については、フクシマの話を全国へ持って行ってくださる方です。

その次の方は<sup>なかじまつえん</sup>中畷哲演さん、去年、福井の<sup>おおい</sup>大飯原発の差止の中心で、若狭の原発群の反対運動に、40年間、関わってきた方です。お寺はすごいです、国宝の<sup>みょうつうじ</sup>明通寺、行かれたこともあるかもしれません。真言宗<sup>おむろ</sup>御室派でしたね。お寺自体は大きくないですが、全国、時間があればどこにでも来て、お話をしてくださいませ。

一番むこうの方は、ちょっと顔が不鮮明で申し訳ないですが、ついこの間まで掛川にいた、内藤さんという、ルーテル教会の牧師さんです。浜岡原発については、私たち宗派を問わず、宗教のあるなしを問わず、丁寧に説明をしてくださいませ。掛川に7年、牧師として勤務の後、千葉県に移りました。たいへん残念だったのですが、本人は意気揚々で、向こうへ行ったら、向こうへ行ったで、松戸の教会なんですが、ひっぱりだこなんですね。あっちこっちの教会へ行って話しをされておられます。焼津でこのような集会を毎年、3・1の前日に企画をしております。

#### ◇墓前祭を守りぬいたお二人

これは昨年、あとで本を紹介しますが、ビキニ被災60年を迎えたビキニデー、真ん中に講師の<sup>ひくまたけのり</sup>日隈威徳さん。宗教学者の方です。右にいる鈴



↓ ↑ 2012年宗教者平和交流集会



↑ 内藤信吾さん（ルーテル教会牧師）



↑ 2014年宗教者平和運動交流集会



木徹衆さん、真宗大谷派の東京・葛飾じょうがんじの乗願寺の住職です。このワンツー、二人の方が、たいへんな墓前祭を守ってくださった方です。分裂騒ぎで、ご存知の方あると思います。私は小さかったんですが。総評が力で、墓前祭を分けようとしたんですね。当時の総評です。そういったところへ、



↑ 鈴木徹衆さん



↑ 日隈威徳さん

宗教者をさておいて、久保山すずさんを取りっこしたんですね。けしからんということで、お前たちは出てゆけということで、今、お年を召していらっしゃいますが、当時、弘徳院の住職ともどもに、墓前祭を守り抜いてくださった方です。一番右の住職です。それを克明に講演をしてくださって、私がテープ起しをさせてもらったんですが、墓前祭の真実とは何かということで、とうとうと書かれています。今ちょっと体調を崩して、入院をされておられて、もうじき退院されます。その左に、たくましい青年がいますが、鈴木徹衆さんのお孫さんです。なんか、反核のDNAが流れているんじゃないかと。(笑い) その手前に、この方が、さっき言った荒川さんです。徹衆さんの娘婿さんです。乗願寺一族と言ってもいいかもしれませんが、宗平協でこういう活動をしています。



↑ 鈴木徹衆(著)  
『信仰・宗派の違いをこえて』

#### ◇ビキニ被爆 久保山愛吉さん墓前祭

これが墓参行進ですね。墓前祭の前。



↑ 久保山愛吉氏墓参行進



← 久保山愛吉氏墓参行進 →



これは、ここ見てください。宗教者平和協議会とビキニデー静岡県実行委員会が共催をしている関係で、できるだけトップに宗教者平和協議会の旗をかけていただいて、キリスト教の牧師さんや、この方は天理教ですね、いろんな方が毎年焼津に集合しています。

これは焼津の市中を行進している映像です。久保山さんの遺影があります。賑やかな駅通りはこういう旗が、それぞれ労組の旗だとか、たくさん出るんですね。九条の会の旗もあります。とにかく、宗教者も負けないように、京都もそうですが、大阪もそうです。「よし、俺はたくさん持っていく」と、旗をものすごくたくさんもってきてくれて、賑やかに行進しました。

この方は神主さん。真宗大谷派のお坊さん。それから天理教の方。宗教者の共同体ですから。この団扇太鼓をたたいている方、静岡県の富士宮市の日蓮宗のご住職です。久保山愛吉さんが好きだったという、赤い花がいつも祭壇の前に供えられています。



↑久保山愛吉さんが好きだったという赤いバラが祭壇に供えられる。

昔は墓前祭が終わってから、もう、やれやれで、みんな帰っちゃうんですね。ビキニデーの集会に出ないんです。だから、地元にいるから、「なんとかしてください」と引き止めるんです。「帰らないで、とにかく、午後の集会まで出て行ってください」と。現在は、ビキニデーの集会、焼津の文化センターでイベントを組ませてもらって、いろんな方に登場してもらっています。

この方、旗を持っているこの方、有度山麓九条の会ってありますね、登呂の方なんですやまとなおひでが、山本直英さらさんです。宗教者の仲間に入って、臨済宗沙羅さいらの会をやっておられました。真宗大谷派のお寺ですが、西敬寺さいきょうじさんという、そこへ行って、九条の会のPRをしてくれて、お陰で、たとえばこの真勝寺さんもご本を置いてくだっているんですが、西敬寺さんも、九条の会のリーフレット、パンフレットを本堂に置いて下さっているんですね。それはそれは有難い限りです。その方、その当時に95歳だと言っていました。すごいです。会があると、自転車で来る。有度山麓、お寺をうんと回ってくれた方です。頭がほんとに下がります。

このマイクを持ってらっしゃる方は、女性で、富士宮の日蓮宗の方です。西村さんとおっしゃるのですが、すごーい優しい方で、いつもなんか会があると、美味しいものを持ってきてくださる。こういう方もほんとに有難いなと思います。

こういう方々が、今30名ぐらいですね、静岡県に、もっともっと広げていきたいんですけれど、やっぱりみなさん、寺をもっていたり、或いはそれぞれの日々の活動があって、なかなかうまくはいかないんですが。今日、ここにお見えの方で、たとえば仏教に関わっていらっしゃる方があれば、墓前祭に行かれることがあったら、そんな形で声をかけてくださったりというの、一つの方法かなと私もいろいろお願いをし



↑2012年3・1ビキニデー集会



↑旗を持っておられる山本直英さんやまとなおひで



↑マイクを持つ西村さん

ております。

静岡で探すと、安倍川のこっちから行くと、安倍川を渡ったところに、たまたま偶然、臨濟宗のお寺さんが山門のところに、核兵器廃絶のポスターを貼ってくれてある。まあ、びっくりしました。山門のところに住職さんの意向で核廃絶のポスターを貼ってくれて、びっくりしました。ですから、いろんなところが、私たちの知らないところが、まだたくさんあるんじゃないかなと思います。

## ◇平和行進

平和行進をやっています。5月19日、神奈川県の湯河原での引き継ぎです。さっきのマイクを持ってた女性の方です。バトンタッチですね。それぞれの、いろいろな団体の引き継ぎをします。神奈川から静岡へ、旗を引き継いで、5月31日に愛知県へ引き継ぎます。静岡県は2週間近く、国民平和行進で、この辺はどこを通るんでしょうか。各自治体を回るから、いろんなところを通ると思いますから、できるだけ私たちもこの旗をつなぎたいということで、広島・長崎に向けての核兵器廃絶の、5月のメインの活動として運営しております。静岡県、いろんな方々がいらっしゃる。静岡の特徴は、沿道募金。回りながら、カンパをお願いするわけですね。私もいろいろ言われて、都合がつくと、衣を着て行くんですが、あんたが来るなら賽銭箱を用意しろと（笑い）、カンパのお願いよりも、いろいろ言われるんですが、けっこう入れてくださるんです。PRも兼ねて、有難いなと思っています。

これが愛知県への引き継ぎ。この作務衣くわやまげんりゅうを着ていらっしゃる方は、桑山源龍さん。浜松の浄土宗のご住職ですが、浜岡原発の反対で、浜松の駅前でマイクを握って、反原発の運動に関わっていらっしゃる。平和行進ではこういう形で活動をしています。



平和行進・神奈川から静岡への引き継ぎ↓↑



↑静岡県から愛知県への引き継ぎ

## ◇いのちをえらびとる断食の祈り

で、その平和行進がどこへ終結するかというと、当然広島、長崎ですね、8月の4日にだいたい広島へ到着します。そうしたら、宗教者ではない一般の方々は8月の6日に世界大会、集会があるんです。私たちはその前日、5日の日に、平和公園の一角を借りて、「いのちをえらびとる断食の祈り」というのを行っています。このように、

「核兵器も原発もない21世紀のために」ということで、ここに集まる人たちは、やはり各宗教の方が集まります。キリスト教、クリスチャンの方もみえるし、一番派手なのは日蓮宗のお坊さんですね。何と言っても、  
うちわだいこ  
団扇太鼓をバンバンバンバンやるんですから。

市電に乗って、ドームの前まで行くと、もう音が聞こえてるから、どこでやってるかすぐわかる。日蓮宗さんといっても、いろいろな方が見られます。妙法寺さんとか、黄色い衣を着た、浜岡原発でも、平和運動、沖縄でもどこでも、妙法寺さんは違う所でやっても、共同行動はとっています。いろいろな宗教の方がみえます。日蓮宗の方が多いですね。

この方は神主さんです。神道、たいへん厳しい状況らしいです。今日、「宗教と平和」

というタイトルを頂いているんですが、静岡県にも神主さんがいらっしゃって、静岡の宗教者の仲間に入ってくださいています。原稿は書く、でも名前は伏せてくれと。神社神道はたいへんです。いろいろ変化の状況の流れに反対するような言論をすると、もう首が飛ぶ。今の時代、「もう、そんなのないでしょ。」というけど、暮らしをしていかなきゃいけないから、ものすごい大変だそうですね。一人の問題だけじゃないというのは、ほんとで、さっき一郷さんが述べられましたけど、戦争に協力をした私たちの教団も、もちろんそうなんですけど、当時の状況、まだたいへん厳しさを引



↑広島・原爆ドーム



↑↓いのちをえらびとる断食の祈り



きずっておられるのです。

この人は、別にこだわらないというか、  
ことひらぐう  
金刀比羅宮という、東京の神社の方ですが、  
神主さんです。ここへ来て、祝詞を<sup>のりと</sup>挙げてく  
れる。私たちはお経をあげる。賑やかという  
か、ある人いわく、ごちゃごちゃだ。(笑い)  
滅茶苦茶じゃないですね。それぞれ言ってる  
ことが、それぞれの宗教、宗派の批判はしま  
せん。なぜかという、集まっている人たち  
が、それぞれの宗教が平和についてどのよう  
に考えるかというのを、きちんと持ってる方  
ですから、教義、教派は問わない。だけど、  
一点共同行動ですね。平和という願いの元に、  
行動する。この方は、ニューヨークへ行っ  
ても、すごい祝詞を作って持ってきてくれる。

核兵器とか戦争というのは、神にも背く大罪だと。<sup>おおがみ</sup>大神さまを怒らせると、たいへん  
なことになる、すごい迫力のある神主さんです。仏教徒では仏罰なんて言わないです  
ね。この人たちは「天罰じゃ。」って言います。NPTのニューヨーク行進に行った  
時に、「ブッシュに天罰を」って、かなりがんばってた方もいました。

いろんな方がいらっしゃいます。ここで、太鼓を叩いている方は、なんと山梨大学の  
教授です。ですが、日蓮宗のお寺の住職さんでもある、科学者です。でもそうは見  
えないと言ったら、怒られました。「わしは、科学者だ」と。向こうで英語でぺらぺ  
らと話をしてましたが、どこかのおじいさん(失礼)にしか見えないんです。こうい  
う方も広島へ行きます。

## ◇追弔法会と灯籠流し

この写真は、断食の祈りが終わった後、5  
日ですね。6日に世界大会の閉会式があつて、  
皆さん長崎へ移動する。そうすると、広島  
の町は静かになります。私たちはそこで泊まる  
んですが、これは太田川とって、原爆が落  
とされた河原のそばで、真宗大谷派の有志が



↑ ↓いのちをえらびとる断食の祈り



おおがみ



↑ 8月5日 追弔法会

集まって、法要をやります。といっても、私たち大谷派というのは東本願寺です。この広島は、安芸門徒さんあきもんといっ  
て、西本願寺、本派の皆さんが多いから、私  
つながりがあんまりないので、道具全部持っ  
て行って、たいへん重たいんですけど、向こ  
うでセットをして、ここで原爆死没者の  
追弔法会ついちようほうえをやらせてもらうんです。勝手にや  
るわけにいかんから、これだけは原水協にお  
願いをして、ここを借りてやっているんです。  
私もいつも行けるわけではないので、若者が  
行ってくれたり、これ、うちの息子です。原  
爆死没者の慰霊法要、真宗では「慰霊」を言  
いません。追弔法会という形でやらせていた  
できます。



↑ 8月5日 追弔法会



↑ 灯籠流し

これは灯籠流し、これもうちの宗派では、精霊、灯籠、こういう儀式的なことはあ  
りませんが、世界から来る人たちは河原に灯籠を浮かべて、世界平和を祈る。核兵器  
をなくそうという、具体的な取り組みです。

#### ◇非核非戦の法要

その後、これは長崎です。長崎に移動しますが、長崎も広島と同様に、今度は非核  
の政府を求める会というのがあって、ここで花輪を供えます。いろいろな方々が参加  
をされている。この方が、静岡県の非核の会代表、志田さん。事務局長をやってくだ  
さっている方です。



↑ 長崎 平和祈念像



↑ 非核の政府を求める会 花輪の供花

後、ちょっと急いでいきます。これが長崎の教務所前で行われている、非核非戦の法要です。こういう所にありまして、8月9日に勤めます。そして、これが終わったあと、今度は長崎大会、世界大会。ちょうど私、写真とったら、オレンジのタスキがたくさんあって、これが静岡の皆さんです。どなたかいらっしゃるかな。長崎世界大会のフィナーレです。



↑↓非核非戦の法要



↑非核非戦の碑と左側に縁起文の銘板  
ここに、1万とも2万ともいわれる身元の分からない方々の遺骨が収納されている。



↑長崎世界大会のフィナーレ

### ◇基地見学

これは北海道です。宗平協は平和会議というのをやっています。これは、北海道の札幌へ行った時の、航空自衛隊の基地見学。まともに行くと煙たがれるので係りの方に色々な場所を教えてもらって、これみんな、宗平協のみなさんです。牧師さんもいるし、真言宗のお坊さんもいますが、そういった具体的な現実を見ながら、学習してます。それと同



↑札幌 航空自衛隊の基地見学





↑↓札幌 航空自衛隊基地見学



↑↓宗平協の平和会議・シンポジウム



↑航空自衛隊 小松基地見学



↑↓米軍 横須賀基地見学

時に、基地問題とか、宗教者の役割ということでシンポジウムを開いたりしています。

これは、軍港横須賀を見学した時のものです。ジョージワシントンがいるかと思っ  
て行ったのですが、韓国へ行っていて、他の軍艦を見学しました。

それから、石川県の空軍・小松基地。民間の飛行場に併設しているのです。すごい

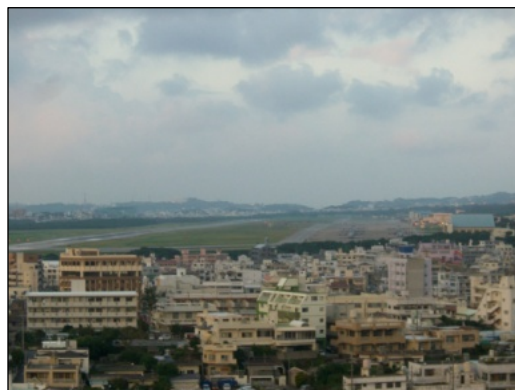


ですね。大丈夫かなと思って、当時、静岡空港から小松便があったんですね。ちょうど私たちがこうやって見ているときに、静岡便が到着したんですね。

これが例の普天間です。沖縄にも行きました。皆さんも行かれた方があるかもしれませんが、ほんとに世界一危険だという、見るとすごいですね。目の当たりに見ると。

これが、あの辺野古です。辺野古のテントを訪ねた時のようすです。

これが辺野古の海です。今、きれいな所に基地を作ろうと、たいへんな動きの中で、沖縄の民意が完全に踏んづけられようとしていますね。これに対して、菅官房長官の回答なんて、もうとても許せない。表情を映したとき、続行は当然だと、なんであんなに平気で言うんですかね。ほんとに信じられないんだけど、そんな状況です。



↑ 沖縄 普天間飛行場



↑ 辺野古 新基地建設反対テント

#### ◇ 沖縄戦のガマ

それで、これ一つ説明させてください。沖縄へ行って、一つびっくりしたのは、これ、ガマですね。ガマの中で、この話、聞いたことありますか？当時、沖縄は唯一、上陸があって地上戦が行われたところです。ある展示館の中に入ったら、これは全部人



↑ 沖縄のガマを再現した人形による展示

形ですが、こういった状況の中で、お母さんが幼子を抱えています。子どもさんもいます。この入り口でしょうかね、日本兵が銃剣を持っています。たとえば、入り口が向こうだとすると、米兵が入って来たときに、沖縄の人たちを守ってくれるはずの日本兵の様子がここに現されているんです。実は、作った当初は、この銃剣がどこに向けられていたかという、もうおわかりでしょうね。入り口ではなく、米兵が入ってくる入り口ではなくて、母親と赤ちゃんに向けられていたそうです。だから、昔、灯火統制ですか、声を出したり、赤ちゃんの泣き声、何の罪もないんですが、大きな声

を出したら存在がわかるので殺されてしまう。だから、なんとかしようとして脅しをかける。或いは、極端な話、親子が殺される。誰が殺すんだ。日本兵が沖縄の人たちを殺すために、この銃剣がこちらを向いていたそうですね。それを恣意的に、あたかもそうではなかったかのように、銃剣だけを入り口に向けさせたという説明がありました。だから、これは、本当の姿ではないということを、私たちは聞かされました。なんか、沖縄戦の実例を聞くと、日本の敵はなんだったのか。私たちは沖縄の海はきれいで、一度は行きたいなと思っていた所かもしれませんが、いざ、実際に行ってみると、ほんとに基地の中です。そういう状況が垣間見れて、しかもそういう状況を聞かされてびっくりしました。これが、沖縄での平和会議です。

#### ◇若狭の原発群

さっき出た、<sup>なかじまつえん</sup>中寫哲演さんです。一昨年ですが、若狭の原発群へ行ってきました。すごいです。東海は浜岡原発がありますが、若狭の方は15基かな、しかもたいへん狭い中にもすごい数の、原発銀座と呼ばれてるんですが、向こうの人たちはそういう言い方をされるのに、非常に抵抗があるのです。そこで中心となってやっておられた中寫哲演さんが言っておられました。「我々のところで作った電気がどこに供給をされるのか、それを考えてください」。当然関西の大都市圏ですね、京都、大阪。この方、住んでる所、小浜ですね。小浜の明通寺って有名なんです、小浜の地形を地図で見ると、大飯原発というのは小浜市じゃないんですね。湾を隔てた北のほうにある。そうすると、浜岡もそうですが、原発がある自治体への補助金ですよ、ついつい出ちゃうんですが。小浜市はなんの恩恵もこうむっていない。そういう状況だけど、危険度は一番高い。当然ですよ。何も距離が離れていたから安全ということはない。だから、かつて、菅元首相（当時）が浜岡原発を真っ先に止めたというのは、当然みなさんもお存知だと思いますが、放射能が西風にあおられて、横浜や首都圏、一番危ないから、もう地元の意志とか、なんか



↑中寫哲演さん 平和会議in若狭



↑小浜の明通寺 国宝の三重塔

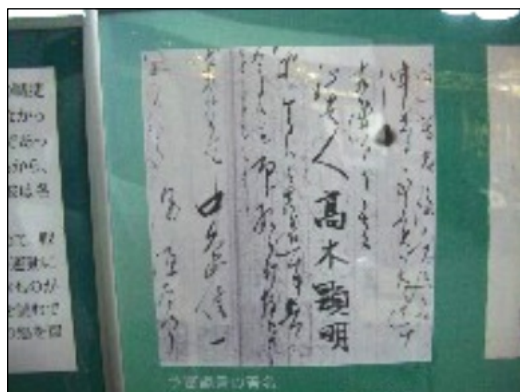
御前崎の石原市長は怒ってましたけど、怒るよりも何も、その前に菅さんがパッと止めちゃった。風向きがそっちへいったら大変だという浜岡原発の状況だった。それに類することが、もう若狭の漁師町にとってはたいへんな状況であるということ、中畠さんが切々と話をしてくれた。それに関わっている方がたくさんいる。

#### ◇僧籍を剥奪された高木顕明さん

たかぎけんみょう  
高木顕明さんという和歌山県の新宮、  
じょうせんじ  
浄泉寺住職。明治天皇を暗殺しようとした大逆事件に連座して捕まった。そこへ行って話を聞いてきました。「戦争は罪悪である」と言われた大谷派の先人たちもいましたけど、この高木顕明さんという方は、真宗大谷派から僧籍を剥奪されました。後に、復権をされるんですが、そういう方々がいっぱいいます。教団というのは、さっきの一郷さんのお話のとおり、ものすごい負の歴史を持っています。こんなこと、今私言っていますが、当時生まれて、当時育っていたら、同じようなことをしたんじゃないかと、自分は弱いですから、不安はたくさんあります。そういった中で、私たちは何が必要か。学ぶしかないんですね。私にはもちろん、戦争の経験、体験ありません。ですから、体験者の方の話を聞くとか、こういった場所へ行って、いろんな形で話を聞いて、後へつなげてゆくことが使命かなというふうに思っています。高木顕明さんと名前が書いてあります。今でいう冤罪ですよ。



↑↓和歌山県新宮市 浄泉寺



↑予審調書の署名



↑「大逆事件」被告者の墓参

## ◇宗平協（宗教者平和協議会の略称）

また、話がガラッと変わりますが、見てください。京都へ行ったときの宗教者の方々です。一番右が、これすごいです。天理教の教会長、正装です。写真だとよくわかりませんが、すごい衣装です。

この方は、日本聖公会の大江さん、元お寺で修行されて、すごい経歴の方で、本もいっぱい書いてます。

聖護院八ツ橋ってご存知ですかね。京都の聖護院の門跡です。御門跡さまといたら、昔はたいへんな状況ですが、先頭に立って、80歳を超えていますが、車に乗って焼津にも来るし、そこらじゅう行くんですが、元気です。「六根清浄」、修験道の宗派です。形としては白装束で手甲脚絆、山中を駆け巡る。とてもそうは見えないですが、話をすると、すごい優しい方です。

神主さん、葛飾のビラ配布事件で捕まった荒川さん、それから本願寺派のお坊さんです。こういう方が一堂に会して、京都で、教会を借りて、宗平協の全国理事会をやったときです。すごいですね、衣を着て教会へ入るなんて。（笑い）神主さんもいるから、めったに見られない光景だと思います。私も初めての体験だった。

京都の町へ繰り出して、何をするかと思ったら、やっぱり募金活動です。たくさんあつまります。すごいですね。衣着てたり、神主さんが正装していたり、若者から「おじさん、何やってるの」とよく聞かれるんですが、御

## 全国理事会



↑ ↓ 宗平協 全国理事会 in 京都



↓ ↑ 京都市街での募金活動



門跡さんもいらっしゃるし、金子みすず館の館長さんも。この方は、同じ真宗大谷派のシンガーソング僧侶（笑い）です。いろんな宗教が集まって街頭に立つと、すごい力を発揮するという事例だと思います。たくさん募金もいただきました。

これ、小森陽一さんですが、東京でやったときに、小森節もすごいんです。昨日か一昨日か、新聞に出てましたね。そのとおりの方です。来て、お酒も大好き。「もうこれ以上あげない」って言ったら、「もうちょっとくれ」って。（笑い）小森さんは、「九条の会」の事務局長です。

<sup>みかみまん</sup>  
三上満さん、ご存知の方もいらっしゃる。  
<sup>みほ</sup>  
美帆シボさん。私が住んでる隣の旧金谷町、島田市のご出身の方、焼津へよく来ますね。

### ◇真宗大谷派九条の会

それから、真宗大谷派の九条の会というのがあります。できた時に、鶴見俊介さんと呼んで、これは大谷派の看板を背負って、たいへんなことだったと、よくやったなと思います。本山の一角で。2月の9日に行ったら、たいへん寒い日で、視聴覚ホールというところで、行いました。

不戦決議文の紹介がありました。うちの教団では1995年に衆参の議会です。本山の議会は、衆議会と参議会、国会と同じようにあります。そこで、不戦決議。文言をみると、なかなか



↑宗平協 全国理事会in東京



↑三上満さん



↑美帆シボさん



↑真宗大谷派の九条の会 設立集会



↑1995年に出された不戦決議

良くできています。素晴らしいです。過去において、戦争に加担した歴史を、きちんと自分で自覚しましょう。見つめ直して、一郷さんが言われた、ほんとうに「お前はどこに立つんだ」と言われたら、ここですね。俺は戦争なんて知らない、なんて言ってる状況ではない。衣を着ているという、そういう厳しさが伴わないと、活動できないんじゃないかなと思います。

これは一昨年亡くなった、<sup>りゅうこく</sup>龍谷大学の学長をされていた<sup>しがらきたかまろ</sup>信楽峻磨さんという方です。この方もすごかったです。隣山、西本願寺から駆けつけてくれたんですが、戦時中に真宗の教団が行った誤った<sup>きょうがく</sup>戦時教学、天皇の教えと阿弥陀の教えが同一だとした責任を誰がとるのか。南無阿弥陀仏と私たちは両手を合わせて、ご本尊に礼拝をします。手を合わさせていただいて合掌します。南無阿弥陀仏が、当時、南無天皇制になったんですね。それを、なんら反省させずにずっときていた我が教団を<sup>は</sup>愧じる。<sup>ざんき</sup>慙愧の念、そういう厳しい言葉があります。その厳しさに信楽さんは立ち向かっていかれた。

鶴見さんの講演が発足時の記念講演として行われました。

#### ◇原爆死没者追弔法会in鉄舟寺

ごめんなさい。話がポッと静岡県内に飛びます。原爆死没者の<sup>ついちょうほうえ</sup>追弔法会。他の宗派では慰霊祭と言います。清水の<sup>てっしゅうじ</sup>鉄舟寺さんです。行かれた方ありますか。毎年、静岡県でも被爆をされた方がどんどん高齢になって、亡くなられる。鉄舟寺のご住職はやさしい方ですから、この団体が無理も言うんですけど、い



↑ 龍谷大学の学長をされていた信楽峻磨さん



↑ 発足記念講演の講師 鶴見俊介さん



↑ 追弔法会を勤める鉄舟寺ご住職

いよいよと言いながら、法要を勤めてくださる。ほんとに頭が下がるご住職です。お世話になっております。9月の終りにやりましたが、この頃は10月の初めに行います。そこに、伊豆にいる佐治麻希さんがよく来て、平和の紙芝居をやってくれます。

これは、焼津の前市長、清水さんですね。清水市長さんに「とにかく墓前祭に来てください。」とお願いをし続けてきました。

これは核兵器の国連に提出する書類で、宗平協もこういった色々な活動をさせてもらっています。



↑ 焼津市長訪問と墓前祭参加要請



↑ 国連に提出する書類に目を通す宗平協メンバー

休憩をはさんで後半の講演

## 1 冒頭挨拶

さっきも申し上げましたように、なにせ、ペンとマイクを持って走り回っている人間が、こんな大きなテーマを頂いたもんですから、とても上手にまとめることはできないと思いますが、話の内容については、皆さんと共有できる部分が多々あると思いますので、是非、あとでご意見等を伺いたいと思います。どうぞご遠慮なく、宗教に関わっている人たちに、こうしてほしいとか、こうなってほしいとかいうご意見がありましたら、身につまる思いで聞かせていただきますので、よろしくお願いします。

まず、冒頭に、ここの真勝寺さんの本堂をお借りして、こういう話ができるというのは、ほんとに嬉しいですね。しかし、この「八周年の会」開催に至るまでに、たいへんなご苦勞があったということをお聞きしました。電話での依頼を受けた時には、会場提供に伴うご苦勞が大きいことは感じられました。でも、私のストレートな想いは、うらやましく思ったんです。ああ、なるほど、やっぱりそういうような状況の中



で、真勝寺ご住職、副住職の一郷真さんはじめ、多くの皆さんのご理解により実現されたのだということを、重く受け留めさせていただきました。

今、世界、日本の現状がどうなのかということ、共に学びながら進みたいと思います。まとめて言いたいことは、お寺の本堂がこういう風に解放されること、私も見習いたいと思います。自坊でも行うのですが、こんなに町の中の寺ではないので、なかなか人が集まらないのです。そこは非常な大きな悩みなんです。

## 2 宗教と平和 —————▶ 宗教者と平和

そんな中で、ちょっと青いレジュメをご覧ください。ちょっと、お前の言いたいことは何なんだ、ということ、わかりにくいかもしれませんが、1番の「私と宗教（仏教）とのかかわり」は、今度どこかで話をさせていただきます。2番目に「宗教と平和」、「矢印」、「宗教者と平和」と書いてあります。どこの本を見たわけでもないですが、ニュースや新聞で、とにかく紛争の火種となっているのが宗教にかかわる部分ではないですか、というのを、この頃お寺にいて近所の方から一番よく聞かれる。

「宗教が戦争をやってる、それは本当か。」と、問われます。私も仏教以外の他の宗教については、正確に答えることができないから、自分が疑問に思っていたことを、ここに矢印で書いたんですが。私の想いは、宗教は心の拠り所となるところであってほしいし、時に生活の規範とか、その人の信条、心の拠り所、<sup>きえしよ</sup>帰依処であるところだと思います。どの宗教に「人を殺していい」という文言があるか。あるはずがないと思っています。なのに、例えば、固有名詞で出させてもらって申し訳ないですが、イスラム過激派とか、IS・イスラム国、なんとか派とかありますね。過激派組織で紛争となっていたり、後藤さんが殺されたり、イスラムという名前を使っていいのかどうか。日本にいるムスリムの人たちは悲しい状況にあるということ、重々聞いています。イスラムの教えをほんとに真面目に信心している人たちは、とんでもない想いで聞いていらっしゃると思います。はらわたがちぎられるような想いではないでしょうか。宗教が人を殺していいはずはないし、それにつながる動きも絶対に否定されなければならないのに、宗教者と呼ばれる人たちが、その宗教を、戦時中もありましたけれど、捻じ曲げてしまっている現実があるんじゃないかと思って、この矢印を書いたんです。この中には、クリスチャンの方もおられるかもしれませんが、無宗教だという方もおられるかもしれませんが、いろんな宗教の方がいらっしゃると思いますが、

私がいろんな人たちと話をする経験則のなかでしか言えないものですから、世界にいろんな宗教がありますが、ここに書ききれない部分はお容赦ください。

## 2 - 1 諸宗教 (宗派・教派) の平和論 (一例)

まず、一番人口が多いのはキリスト教だと言われていますね。キリスト教とイスラム教を合わせたら、世界の人口の半数以上になると言われています。キリスト教の人たちがよく言われるのは、“剣によって立つ者は剣によって滅びる”と、聖書に克明にこういう記載があるということは、よくお聞きします。ユダヤ教の人たちは、“剣を打ち変えて鋤とせよ”。武器を農具にということですね。それも、私たちよく聞きます。モーゼの十戒には、“殺害してはいけない”、それは文言として残っているそうです。早口で申し訳ありません。いろんな条項があると思います。イスラム教については、「サラーム (平和) のためになすべき善は、人類の善のために努力を惜しまないこと」。許されないこと (ハラーム)。よく食事で、皆さん聞いたことがある、「これはハラールだからと」。私、初め何を言っているのかと思ったら、ハラールというのは許されること、という意味だそうです。礼拝をするだとか、聖地に巡礼をするだとか、五つの行があるそうです。ここをみても、一神教の世界でしょうが、「殺してもいい」という条文はどこを探してもないわけですね。

よく、原理主義っていわれるんですが、原理主義そのものは、詳しい方があったら教えてください。キリスト教から端を発していると、私は聞いたんですが、歴史の中で変遷をしてゆく。カトリックだと大本山と言っているのかな、ローマ、バチカンですよ。そのカトリックの総本山から、また違った形で、キリスト教の教えが現実に即して変わってゆく。これは歴史とともに、私必要なことかなと思うんです。元に戻れという回帰の運動を原理主義と呼ぶならば、別に原理主義そのものが悪いとは思わないのですが、意味の上です。でも原理主義という文字が新聞紙上で踊ると、私たちはそれに流されてしまう。私自身がそうでした。ですからイスラム原理主義、過激派か、戦争肯定か、そういうような状況で結びつけてしまっていますが、そうではないんじゃないかな、という思いでいます。

宗教で、命の問題を問われたときに、われわれはそれを聞いたときに、過去の戦争の時代に、教義を曲げてまで、さっきの話じゃないですけど、南無阿弥陀仏が南無天皇制になっていった。そこを恣意的に、意図的に作ってしまった人間の罪というのは、われわれも背負っていかなくちゃいけないことなんじゃないかなと思います。ですか

ら、私自身の課題でもあり、宗平協の課題でもあるんですが。イスラムの人たちの話を聞きたいというのが、これからの課題。何回か聞いたんですけど、まだ私の理解不足の点がたくさんあることは事実です。

それから、インドに特有のヒンズー教ですね。ヴェーダという聖典から、マハトマ・ガンジーさんですか、非暴力主義。そういった中でインドでは10人のうち8人ぐらいがヒンズー教徒だと言われています。一説には、インドで発祥した仏教は、ヒンズー教との軋轢あつれきの中で、寺院を焼かれたり、インドでは、掘ってみると非常に仏跡が少ないという部分も、宗教上のいろいろ歴史の変遷があったということを聞いています。ヒンズー教においては、多神教だと聞いています。

ここから、いきなり神道の世界、日本に入ってくわけですが、やはりさっき言った神主さんに聞いたんです。自然と共生するのが宗教だ。だから、戦時中はそれが間違っただ状況の中で、国家神道になっていった。それに付随して、仏教の教団は全日本仏教会という一つのものにまとめられてゆく。キリスト教は日本キリスト教団という名称に統一されて、国家の戦争体制に組み入れられてしまった。むしろ、積極的に戦争への道を教団が歩んでしまった、ということです。これは、後で出てきます。神道はそういう状況で、神々をも恐れぬ大罪だと、さっきの神主さん、祝詞にそういう形で書かれました。

天理教のみなさんも、がんばっておられる方がおります。世界平和、陽気ぐらし、世界いちれつ。教祖は中山みき師。この天理教教団からも「天理教平和の会」が生まれ、活動を共にさせて頂いております。

### 2-1-1 仏教の平和論

仏教では、いろいろな宗派がありますが、ここに、ちょっと難しくてすみません。私も不勉強で。四諦したいはっしょうどう八正道ちゅうどうとか、中道とかって書いてあります。私たち真宗の学びでは、当然八正道はあるんですが、聞く回数が少ない。「苦集滅道くじゅうめつどう」、四つの真理を四諦と言います。諦たいというのは、きわめるという意味です。それをきわめてゆくのに、八つの道があるということで、八正道。一番よく出てくるのが「正見しょうけん」、正しく見る。或いは「正語しょうご」、正しい言葉。正しい命しょうみょうと書いて「正命」。そういうことが八つあって、仏教徒の大きな学びの一つで、仏教の真髓を表す言葉、四諦八正道だと言われています。

その八正道のことについて、実は神奈川県の九条の会があって、すみません、名前を忘れたんですが、そこで真言宗の住職さんが『四諦八正道から平和を考える』という話をしてくださったそうです。私、行きたかったんですが、面白かったということで、どこが面白かったかと聞きました。

八正道の「正」というのは正しいという字ですね。その住職さんが言うのに、正しいというのは、どう書きますか？「一」を書いて「止」と書く。いったん、止まるんだ。突っ走しちゃあダメだ。一旦止まれと。安倍さんに、まさに言いたい。(笑い) ちょっと立ち止まって見ると、自分が今まで見えなかったことが見えますよ。それが八正道の正の字だ。正見、正語とかいっぱいあるうちの、正しい命、「正命しょうみょう」という言葉があって、その正しい命というのが、まさにこれが平和の条項だと。

だから、仏教ほっくきょうはどんなことを言っても、「殺すなかれ」と言う。法句経(ダンマパダ)の中に、“殺してはいけない、殺させてはいけない、殺すことを容認してはいけない”、この三つがはっきり書かれています。いっぱい資料はもってきたんですが、たくさんは紹介できないので、うちの本堂に貼ったのをはがしてきました。あなたはあなたであることが尊い。殺してはならぬ。殺させてはならぬ。こういう条項ですね。この後に、殺すことを容認してはならぬ。そういう一語もあります。つまり、殺すことを容認してはならぬ、というのは私にとって何を言われているかということ、黙って見てちゃダメだ、と。こういうことですよ。

だから、宗平協の中で、いろいろ話を聞いた時に、ある若いクリスチャンの方が、マザーテレサの言葉を引用されました。「愛の反対はなんですか？」と聞かれたときに、「愛の反対は憎しみではない。愛の反対は無関心である」と、マザーテレサさんは答えられたそうです。ドキッとしましたね。だから、感情の憎悪の赴くまま、私たちはよく対立しますが、愛の反対は憎しみ、これは身からでる部分については止められないこともあるかもしれませんが、それよりも何よりも一番大事なことは、無関心でいることが一番の対立の基である。

ですから、殺すことを容認してはならない、という仏教のダンマパダの言葉というのは、キリスト教の教えとも相通ずる部分があるのではないかと思いました。そういった意味で、レジユメに戻りますが、四諦八正道、正しい命したいはしょうどうというのは、仏教で言えば、平和を求める使命、その命に関わってくる、そういったことでとらえられるのではないかと思います。

そして、私たちの宗派に入っていくと、日本にはいろんな宗派がありますよね、わかりにくいと思います。入って来た時代とそれから定着した場所と、全部それぞれが

ずれているんです。そこへ教えが違った形で広まっていくというのは、ある意味では、必然だと思えます。だから、奈良仏教と平安仏教は違います。私たちの浄土真宗は法然、親鸞と、浄土教を流れとしておりますから、鎌倉時代です。そうすると、個人救済の仏教なのか、国家の救済の仏教なのか、もうそれだけでも時代の開きがうんとあります。そういったところへ、浄土教を人生の途中から学んだ親鸞という人が、師である法然さんから聴いた念仏の教えに出合ったときの感動を伝えられました。私たちは朝な夕なに正信偈しょうしんげという勤行ごんぎょうで勤めているわけです。全部、それぞれの宗派に関わってくる正依しょうえの経典というのは、きっとね、命を尊ぶべしという、平和の条項に、多分重なるんじゃないですか。だから、そこへ行くとしたら、八正道じゃないですけど、正命、正しい命と書くのは、命がきちんと保障され、守られてゆく、そういったことを私たちは聞いて、それを求めてゆくという事が、仏教でいう使命ととらえられていると思えました。

最後、ポーンと飛んじゃうと、憲法9条と全くなんにも変わらないと思えますね。9条と平和の条項。そこへいったときに、共通事項というのは、たいへんなものがあるのではないかと思います。

## 2-1-2 平和とは

それぞれの宗派、宗教で持っている平和への願いというのは、言葉は違っても、或いは歴史観も違うかもしれませんが、願いを一つにしたということでは同じです。違いは違いで、よく議論になるんです。乗り越えるのか、乗り越えなくて、そこはそのまま置くのかは差し置いても、平和というのは、命が平等に守られている、そういった意味で宗教的な条項がとらえられるのではないかと思います。

そして、先の真言宗の住職は「平和」という字を書いて、平和というのは平等に、穀物が、食べ物が、平等に口に入ることだと。日本は狩猟民族ではなくて、農耕民族です。私、自分が名前に“和”をもらってるんで。食べ物がのぎへんですね、平等に口に入ることが平和。だから、今の社会はそれは保障されなければいけない。そうなのが平和ですよと、真言宗のお坊さんが言っておられた。なるほどな、と思えました。

## 2-2 宗教と「宗教者」、「宗教と平和」「宗教者と平和」

ここで、レジュメの2番へいきますと、宗教と「宗教者」、「宗教と平和」「宗教者と平和」とあります。“宗”の意味は、私たちが扇子になったとすると、“要”の部分だよと、よく聞きました。そこの教えに対して、正しい“信”であると思われるベクトルですね、矢印で向かえばいいんだけど、何か自分の都合で、意図的に変えていってしまう自分がないか、という問いがいつもあるんですが。そうすると、自己中心的な発言や行動がたくさん出てきてしまう。それが、ずっとそれてしまえば、「命を尊ぶ」ということが、事実と反した状況が出てきてしまうのではないかと。

$$\boxed{\text{宗教}} = \boxed{\text{正信}} = \boxed{\text{平和}}$$

ここに書いておいたのは、宗教というのは“正しい信”であるならば、平和と必ず結びつくはずなんです。何か自分の都合で考えていったときに、宗教者と呼ばれる人たちが、「ほんとにお前の信は何か」と問われた時に、自分の都合で考えていたら、平和に結びついていかない部分がたくさんあるのではないかと思います。ですから、イコールという記号で入れさせてもらいました。

## 2-3 歴史からの検証 「いのちの尊厳」を踏みにじった史実

全部は紹介できませんが、簡単に言ってみますと、宗教者があやまった宗教観の中で、歴史を進めてきてしまった。人の命を踏みにじってきた例というのは、歴史の教科書で言えば、例えば西洋の歴史といえばキリスト教の歴史しか聞いてない部分もあるのではないかと思います。だから、十字軍などというと、聖地奪還に向けての戦いだと言いますが、キリスト教以外の人たちにとっては、十字軍というのは侵略者以外の何ものでもない、と思うんです。そういった構図がいくつかあるんじゃないかと思えます。だから、私たちはどこに立つんだと言われたときに、きちんと私たちが客観的に立てないのですが、歴史の中で、一つ一つきちんと検証をして、考えていかなければいけないと覚えることがたくさんあります。

ですから、日本で言えば、当然、さっき一郷さんが言われた、戦争の時代に教義を捻じ曲げて、もっとはっきり言うと、私たちの宗派は、親鸞聖人の仰せにないことを仰せとして、これが真宗の教義だという形で、若者を戦場に送り出してしまったという、そういう完全なる宗祖に背いた歴史を背負っていると思います。そこに立たな

い限り、やはりほんとうのものは見えてこないと思います。

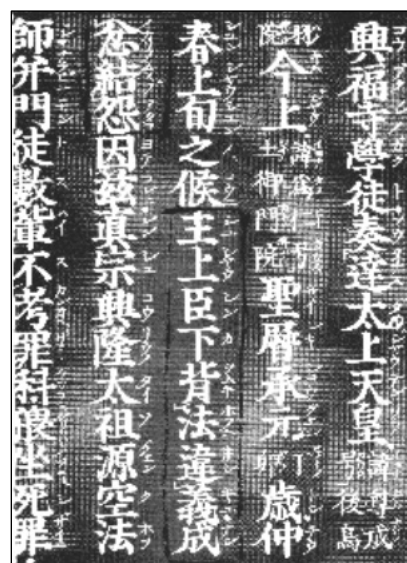
仏教史を学んでいく中でも、解釈が異なる点は多々出てきます。ある会では、「自虐史観」という言葉が出ました。そこで、論議が平行線になったんですが、「自虐史観」を持ち出して、例えば、従軍慰安婦の問題だとか、当時は戦争を遂行する体制であったんだと、そここのところは、もう不問にしてもいいのではないか、もっと前を向けと。とんでもない話ですよ。後ろを向いてから前を向く必要があると思うのですが。そういうことを言っておられる宗教者もいました。

ですから、私たちはどこかで、九条の会掛川でも言ったんですけど、同じ方向をみんなが向いてる人同士が、同じ方向へ声明を出すのは楽なんです。あたりまえなんだけれど、宗平協でもよく話しになるのですが、違った人たちと共同を組めるような厳しい道もどこかでやっていかなければならないのではないかな。当然、議論になるし、かみ合わない部分もたくさんあるんだけど、今の状況からすると、そういうことに敢て踏み込んでいかないと、間に合う世の中ではない。そのようなことを思っています。

### 2-3-1 真宗大谷派教団の「戦時教学」

「歴史からの検証」と、レジュメの3番に書いてあります。私たち大谷派の教団は、「宗祖の仰せになきことを仰せとした」という実例、親鸞さんがライフワークとされた『<sup>きょうぎょうしんしょう</sup>教行信証』の中の文字を削除しちゃったんですよ。念仏の批判をされて、法然上人は四国へ、親鸞聖人は北陸へ流されるわけです。親鸞さんが、教行信証という書物の中に、天皇批判をしたんですね。

真ん中の行、わかりますか、中央のあたり、<sup>しゅしょうしんか</sup>「主上臣下、<sup>いかり</sup>法に背き<sup>あだ</sup>義に違し、<sup>いかり</sup>忿を成し<sup>あだ</sup>怨を結ぶ」。だいたい、感覚的にはわかりますかね。主上というのは、後鳥羽上皇のことです。後鳥羽上皇が法に背いた。念仏の義に違えたことをした。そして、最後の行です。「門徒数輩不考罪科<sup>じゅれんぼう</sup>猥坐死罪<sup>あんらくぼう</sup>」。殺されちゃうわけですよ。住蓮房、安楽房、二人のお坊さんたちは死罪。親鸞聖人、ここからものすごい怒りの意味を発しているんですが、ここが、ちょっと見えないかもしれませんが、「主上臣下背法違義成忿結怨」このあたりは戦時中は削除されました。誰が



↑『教行信証』

削除したか、国家ではない。教団です。私たちの教団が自ら削除した。だから、本当に、教団の負の歴史を私たちは今も背負っている。こういう状況があるのです。

## 2-4 宗教者の「戦争責任」と「戦後責任」

ほんとうに一つ一つとらえてゆくと、こういった事実がありました。それは宗教者の戦争責任です。私たちの世代は、「♪ 戦争を知らずに僕らは育った ♪」という『戦争を知らない子どもたち』という歌をうたいながら大きくなったんですが、じゃあ、お前たちはいいか。レジユメに「戦後責任」と書いたんですが、戦後に生まれたお前たちに責任はあるだろう。まあ、いろんな解釈はあるんですが、私らが後へ伝えていかなくてはいけないことは、当然です。ここに大変な時代をくぐってこられた方もいらっしゃると思いますが、我々はそれを聞いたら、自分の息子に伝えないといけない。ここに書いてある通り、「宗祖の仰せになきことを仰せとした責任」。

そして、ここに与謝野晶子さんの『君死にたまふことなかれ』と書いてあります。いろんな解釈の仕方があろうかと思いますが、私が高校の時の歴史で聞いたのは、「・・・末に生まれし君なれば・・・人を殺せと教えしや・・・」。「人を殺せと教えたか」という文章を、与謝野さんは詩に書いていらっしゃる。

これと同じことを我々の教団がやってしまった。じゃあ、大谷派の教団だけじゃなくて、他の事例というのも多々あったと思います。宗教者の責任というのは大きいと思います。うちの寺も、昔の写真を引っ張り出すと、慰問袋といって、お寺の境内に集まって、戦地に赴く兵隊さんに送ったのではないですかね。京都の本願寺では、白州という大きな、広いところで、若者の命を戦地に赴かせてしまった。そして、当然、お国のためにがんばってこいよと、お国のためにがんばるといのは、もっとストレートに言うと、相手と戦って、相手の命を殺すということですね。そこに立たない限り、宗教の平和という条項はないと思うのですが、そこをオブラートにくるんで、たいへんな状況

君死にたまふことなかれ

(旅順の攻圍軍にある弟宗七を歎きて)

與謝野 晶子

ああ、弟よ、君を泣く、

君死にたまふことなかれ。

末に生れし君なれば

親のなさは勝りしも、

親は刃(やいば)をにぎらせて

人を殺せと教へしや、

人を殺して死ねよとて

廿四(にじふし)までを育てしや。

・・・後略・・・



を作ってしまったということです。

ですから、ここに、「戦争責任」「戦後責任」と書いてありますが、予定の時間がありますので、このへんにしますが、一億総懺悔という言葉、私は教科書で聞きました。一億人が懺悔ですから、過去の罪を悔い改めてという意味だと思ったんですが、そうしたら、ある方が、「いや、あれは天皇に対して言ったんだ」と。8月15日の天皇陛下のお言葉に対して、「天皇さん、申し訳なかった」と、そういう状況で解釈した方もあったという、なんか私びっくりしましたけど。多くは、さっき言ったように、教団が天皇の教えと阿弥陀の教えが同一だとしてしまった、大きな過ちであるというように思います。

### 3 現在に呼びかけられていること

ですから、レジュメの3番目、「現在に呼びかけられていること」。ここに①から⑦まで書いてありますが、本当はここを、全国の状況も含めて申し上げたかったんですが、すみません、皆さんからのお話も聞きたいと思いますので、また、お感じになったことは、時間に限りがあるかもしれませんが、出して頂きたいと思います。

なにもまとまらず、申し訳なかったですが、そういった負の歴史を持ちながら、今現在、世界で起きていること、紛争もしかり、原発の問題もしかり、命がほんとうに危ない状況にさらされているということに対して、私たちが何ができるかということ、そここのところを詰めて考えて行動していかなければいけないと思います。それが、「平和の祈りを行動の波へ」というスローガンで50年前にこの旗を持って立ち上がったいった私たちの先達から学んでいくことでありましょう。

今の私でいえば、個人的な課題は、いろんな人と関わり合いながら、意を同じくする人たちだけではなくて、考えの違う人たちのところへも、大事なところは何でしょうかと、問いかけてゆくことが自分の課題かなと思っています。

今日は長時間ありがとうございました。

この講演録は2015年3月29日（日）、長沼の真勝寺本堂で開かれた竜爪山九条の会八周年のつどいの記念講演を編集、小野和典先生に校正していただいたものです。

2015年10月 竜爪山九条の会・事務局